



## 三角形の外心の位置ベクトル

三角形があれば、その外心<sup>1</sup>が存在する。よって、三角形の3頂点の位置ベクトルを用いて、外心の位置ベクトルを表すことができる。本稿では、加重重心の結果<sup>2</sup>を用いて、外心の位置ベクトルの美しい表示を与える。以下では、 $\sin(2 \times \angle A)$ のことを $\sin 2A$ と表し、 $\triangle ABC$ の面積もまた、 $\triangle ABC$ で表す。

命題. 3点  $A(\vec{a}), B(\vec{b}), C(\vec{c})$  を頂点とする  $\triangle ABC$  の外心を  $O(\vec{o})$  とする。このとき、

$$\vec{o} = \frac{(\sin 2A)\vec{a} + (\sin 2B)\vec{b} + (\sin 2C)\vec{c}}{\sin 2A + \sin 2B + \sin 2C} \quad (1)$$

が成り立つ。

証明. まずは、 $\triangle ABC$  が鋭角三角形であると仮定する。このとき、外心  $O$  は三角形の内部に存在する。 $\triangle BOC, \triangle COA, \triangle AOB$  の面積比を  $\alpha : \beta : \gamma$  とすると、加重重心の結果から、外心  $O$  の位置ベクトルは、

$$\vec{o} = \frac{\alpha\vec{a} + \beta\vec{b} + \gamma\vec{c}}{\alpha + \beta + \gamma}$$

と表せる。

$\alpha : \beta : \gamma = \sin 2A : \sin 2B : \sin 2C$  であることを示す。円周角の定理から、 $\angle BOC = 2A$  なので、外接円の半径

を  $R$  とすると、 $\triangle BOC = \frac{R^2 \sin 2A}{2}$  が成り立つ。他の小三角形についても同様に考えることで、

$$\alpha : \beta : \gamma = \frac{R^2 \sin 2A}{2} : \frac{R^2 \sin 2B}{2} : \frac{R^2 \sin 2C}{2} = \sin 2A : \sin 2B : \sin 2C \quad (2)$$

が成り立つ。

次に、 $\triangle ABC$  が鈍角三角形である場合を考える。どこでも一緒なので、 $\angle A$  が鈍角であるとする。このとき、外心  $O$  は三角形の外部の右図のような位置に存在する。 $\triangle BOC, \triangle COA, \triangle AOB$  の面積比を  $\alpha : \beta : \gamma$  とすると、再び、加重重心の結果から、外心  $O$  の位置ベクトルは、

$$\vec{o} = \frac{-\alpha\vec{a} + \beta\vec{b} + \gamma\vec{c}}{-\alpha + \beta + \gamma}$$

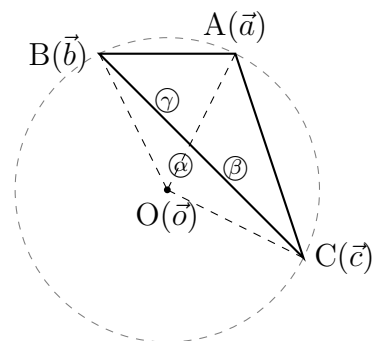
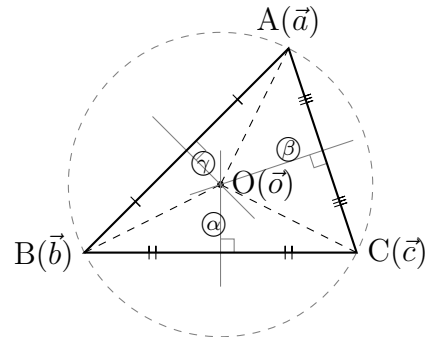
と表せる。

$\alpha : \beta : \gamma = -\sin 2A : \sin 2B : \sin 2C$  であることを示す。円周角の定理から、 $\angle BOC = 360^\circ - 2A$  なので、外接円の半径を  $R$  とすると、 $\triangle BOC = \frac{R^2 \sin(360^\circ - 2A)}{2} = -\frac{R^2 \sin 2A}{2}$  が成り立つ。 $\triangle COA, \triangle AOB$  の面積は上の鋭角三角形の場合と同様に求められるので、

$$\alpha : \beta : \gamma = -\frac{R^2 \sin 2A}{2} : \frac{R^2 \sin 2B}{2} : \frac{R^2 \sin 2C}{2} = -\sin 2A : \sin 2B : \sin 2C \quad (3)$$

<sup>1</sup>三角形の3辺の垂直二等分線の交点を外心という。外心は、各頂点から等距離にあることが知られている。この性質から、外心を中心として、3頂点を通る円が描けることが従う。この円を外接円という。

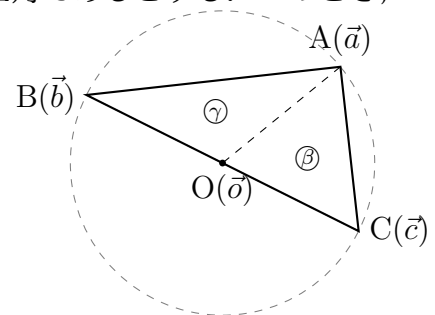
<sup>2</sup>加重重心の拡張 <https://gleamath.com/weighted-center02/>



が成り立つ.

最後に  $\triangle ABC$  が直角三角形である場合を考える.  $\angle A$  が直角であるとする. このとき, 外心  $O$  は辺  $BC$  上に位置している. さらに, 線分  $BC$  は外接円の直径なので, その中心である外心は, 線分  $BC$  の中点である. よって, 外心  $O$  の位置ベクトルは,

$$\vec{o} = \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}$$



と表せる.

一方, 今,  $\sin 2A = \sin 180^\circ = 0$  であり,  $2B = \angle COA = 180^\circ - \angle BOA = 180^\circ - 2C$  なので,  $\sin 2B = \sin(180^\circ - 2C) = \sin 2C$  が成り立つ. 以上から, (??) 式の正当性は, 次のように確認できる:

$$\vec{o} = \frac{(\sin 2A)\vec{a} + (\sin 2B)\vec{b} + (\sin 2C)\vec{c}}{\sin 2A + \sin 2B + \sin 2C} = \frac{(\sin 2B)\vec{b} + (\sin 2B)\vec{c}}{\sin 2B + \sin 2B} = \frac{\vec{b} + \vec{c}}{2}.$$

以上から, どの場合においても命題の主張が成り立つ. □

補足.  $\triangle ABC$  の 3 頂点  $A, B, C$  の対辺の長さをそれぞれ,  $a, b, c$  とし, 外接円の半径を  $R$  とすると, 正弦定理から,  $\sin A = \frac{a}{2R}$  が成り立つので, 二倍角の公式を用いて,  $\sin 2A$  は,

$$\sin 2A = 2 \sin A \cos A = \frac{a \cos A}{R}$$

と表せる. この表示を用いて, 外心の位置ベクトル  $\vec{o}$  は, 次のように表すこともできる:

$$\vec{o} = \frac{(\sin 2A)\vec{a} + (\sin 2B)\vec{b} + (\sin 2C)\vec{c}}{\sin 2A + \sin 2B + \sin 2C} = \frac{a(\cos A)\vec{a} + b(\cos B)\vec{b} + c(\cos C)\vec{c}}{a \cos A + b \cos B + c \cos C}.$$

さらに, 余弦定理から,  $\cos A = \frac{-a^2 + b^2 + c^2}{bc}$  が成り立つので,  $\vec{o}$  の分母は,

$$\begin{aligned} a \cos A + b \cos B + c \cos C &= \frac{a(-a^2 + b^2 + c^2)}{bc} + \frac{b(a^2 - b^2 + c^2)}{ca} + \frac{c(a^2 + b^2 - c^2)}{ab} \\ &= \frac{a^2(-a^2 + b^2 + c^2) + b^2(a^2 - b^2 + c^2) + c^2(a^2 + b^2 - c^2)}{abc} \end{aligned}$$

と計算できるので, 外心の位置ベクトル  $\vec{o}$  は,

$$\vec{o} = \frac{a^2(-a^2 + b^2 + c^2)\vec{a} + b^2(a^2 - b^2 + c^2)\vec{b} + c^2(a^2 + b^2 - c^2)\vec{c}}{a^2(-a^2 + b^2 + c^2) + b^2(a^2 - b^2 + c^2) + c^2(a^2 + b^2 - c^2)}$$

とも表せる.